

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 2月28日 10:55AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～40,000 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～44,000 ドル  
(S&P500) 5000～6100

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.881

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均



### 【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

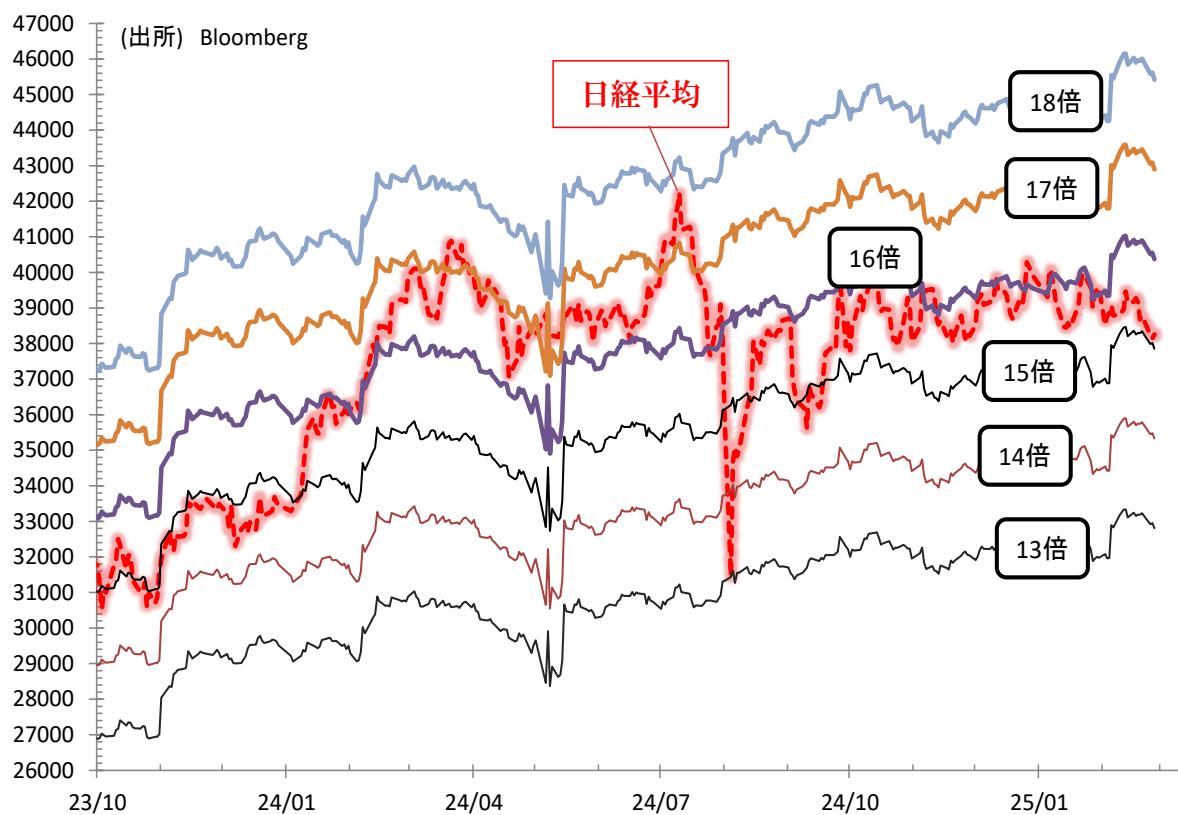
この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。年初からは(4)-C 波による下落が進行中とみられ、3 月中にも(24 年 8 月底に次ぐ)二番底を付けるでしょう。そしてこの二番底は、第(5)波上昇トレンドの(事実上の)開始点になると思われます。

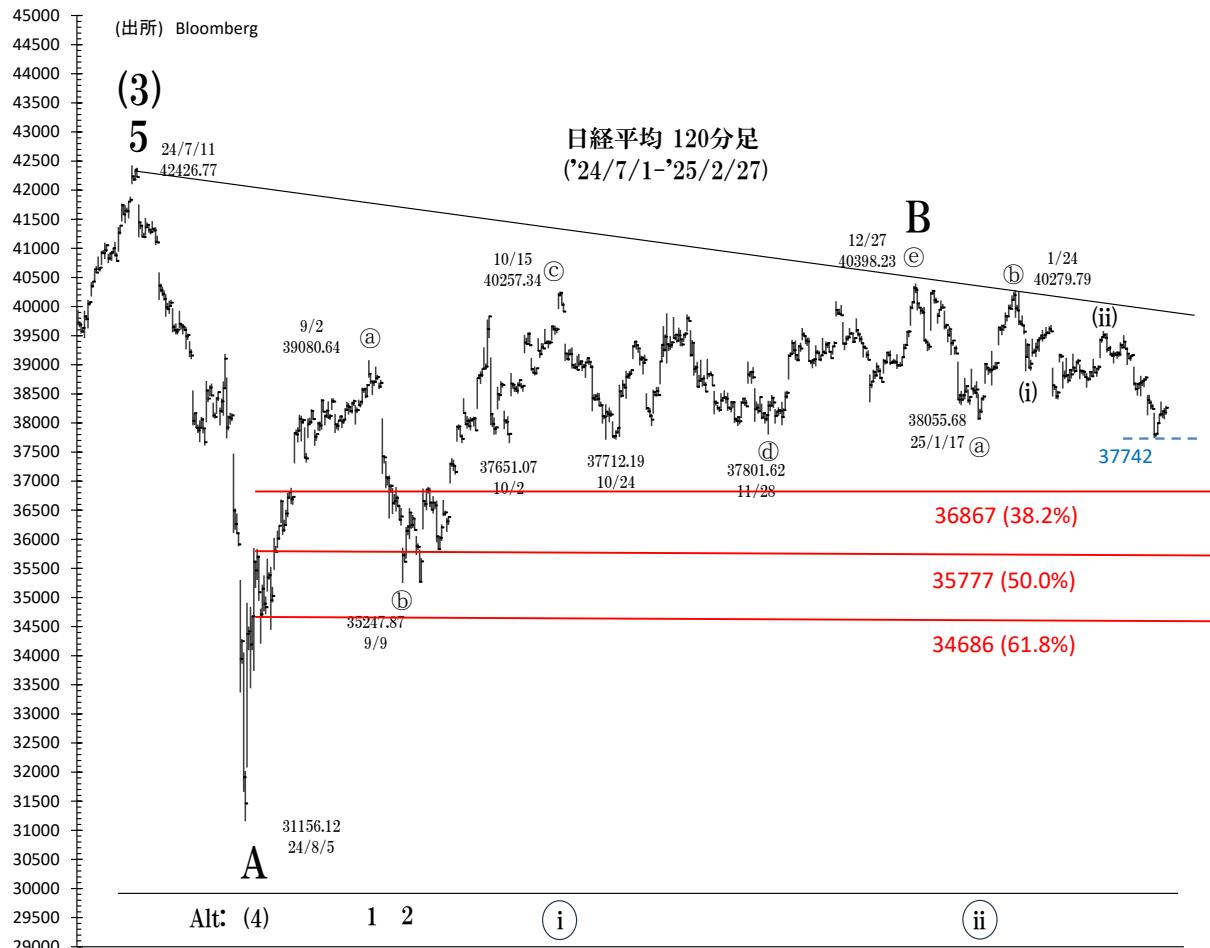
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



### [予想 PER 別の日経平均水準]



2月27日の日経平均予想 EPS は 2523 円。過去最高は 2564 円(2/13)です。



### 【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波によって、日経平均は 24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

今週は 38,401 円(2/3 安値)、38,055 円(1/17 安値)、37,801 円(11/28 安値)、これら注目節目を相次いで下抜きました。特に 38,055 円のブレイクによって、24 年 10 月初旬から続いていた日経平均の「安値切り上げ」基調がついに途切れたことは、日経平均の下振れリスクを一段と高めた、といえるでしょう。

季節性からみると、決算期末の 3 月は軟調になりやすい月です(いわゆる「彼岸底」の月です)。それに加え、今年 3 月は 2 月に続く「三日新甫」(月最初の取引日が 3 日から始まる)であり、波乱の展開を予感させます。

日経平均は 3 月に、フィボナッチ比率からの節目 [36,867 円]、[35,777 円]、[34,686 円]などを順次、打診する展開となりそうです。

## NY ダウ・S&P500



### 【日足 エリオット波動分析】

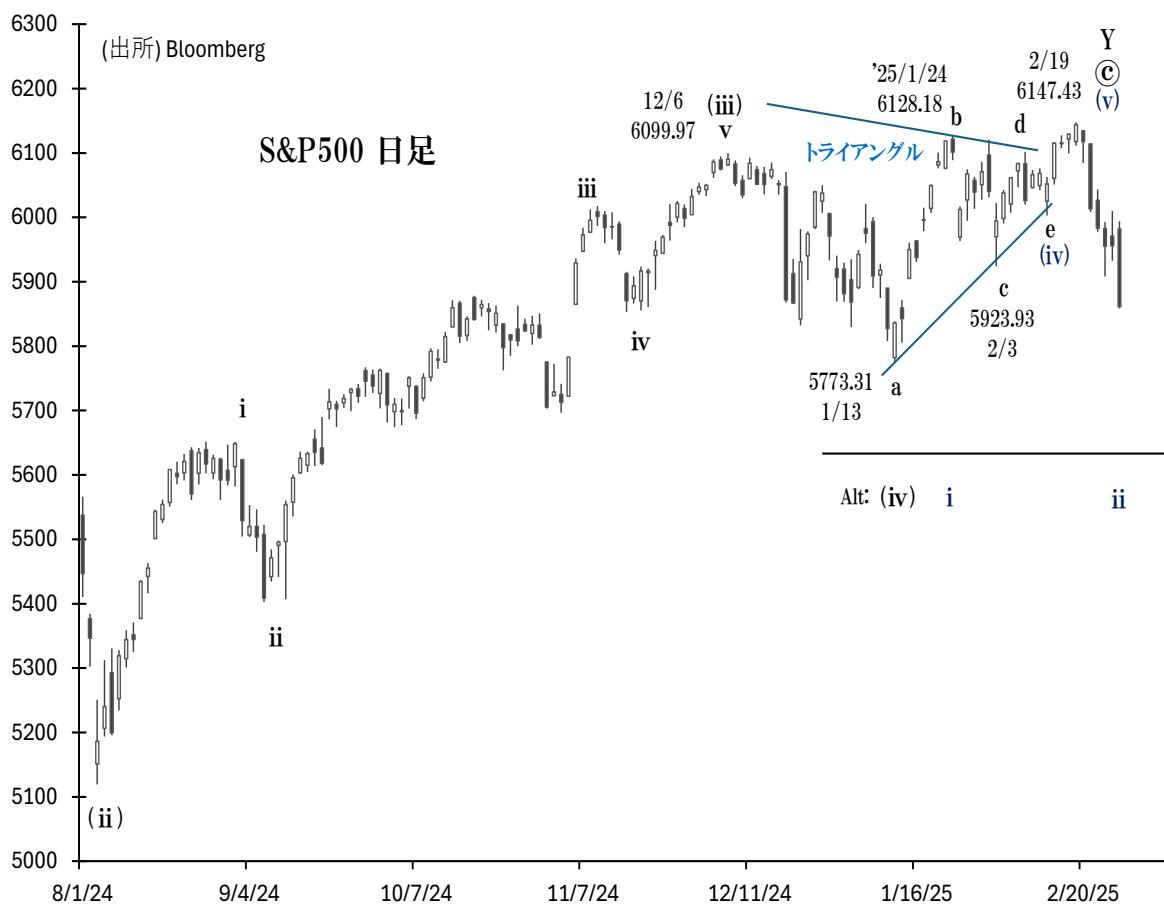
NY ダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24年4月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことと、この時点におけるNY ダウの高値からの下げ率は16.5%です。

### (オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13安値)からの上昇は第(v)波です。この見方によるとNY ダウは今後、[45,244ドル]、[45,575ドル]、[46,456ドル]、などへ上昇する可能性があります。これら上値メドを達成後に調整局面が始まるでしょう。なおこの見方は、41,844ドルを一時的にも下回ると無効になります。



### 【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6147(2/19 高値)を以て第(v)波は完了し、そこから調整が始まるとみられます。第(v)波の上昇幅自体は比較的小さいものでしたが、長期的な上値レンジ[6145-6161]内には収まっています。

2月27日には5923(2/3 安値)を明確に下回りました。この日は一時5858まで下げましたが、この水準は、1月からの上昇分に対し76.4%押し[5861]に相当します。この辺りからリバウンドが始まるか、あるいは、**28日以降も下げ基調が継続するか**が注目されます。

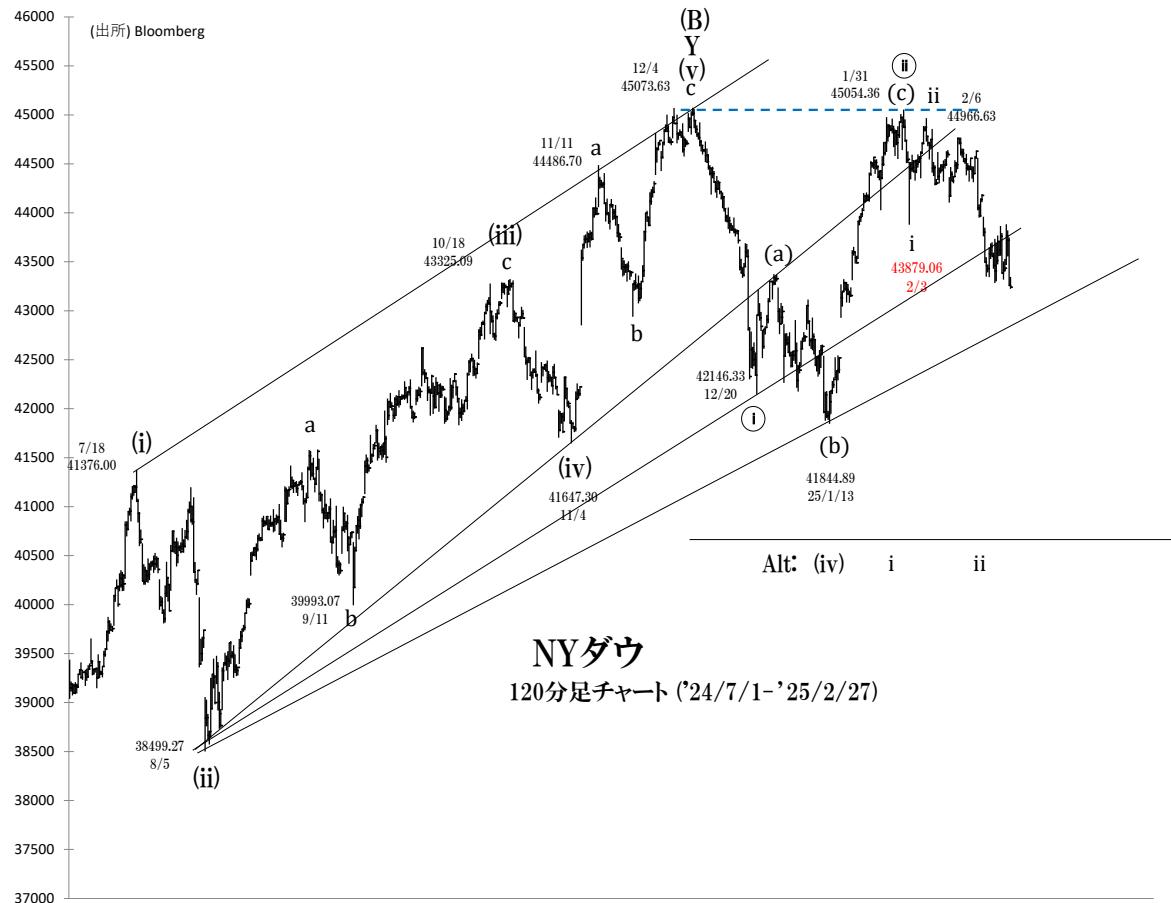
3月には5773(1/13 安値)を試すとみられますが、仮にそれを一時的にも下抜くと、一段と大きな調整入りが確認されます。最終的には22年10月以降で最大の調整に見舞われると思われます。

### (オルタナティブ・カウント)

5773(1/13 安値)以来の第(v)波は依然進行中です。

第(v)波のうち第 ii 波は「エクスパンディッド」フラット」(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)であり、足元の下げはⒸ波に位置付けられます。Ⓒ波は現行レベル付近で下げ止まり、まもなく(v)-iii 波による上昇が始まるでしょう。

このシナリオにおいて S&P500 は、大きな調整が訪れる前に高値を更新する可能性があります。なおこの見方は5773を割ると無効になります。



### 【時間足 エリオット波動分析】

45,054 ドル(1/31 高値)からマル iii 波による下落が進行中と思われます。

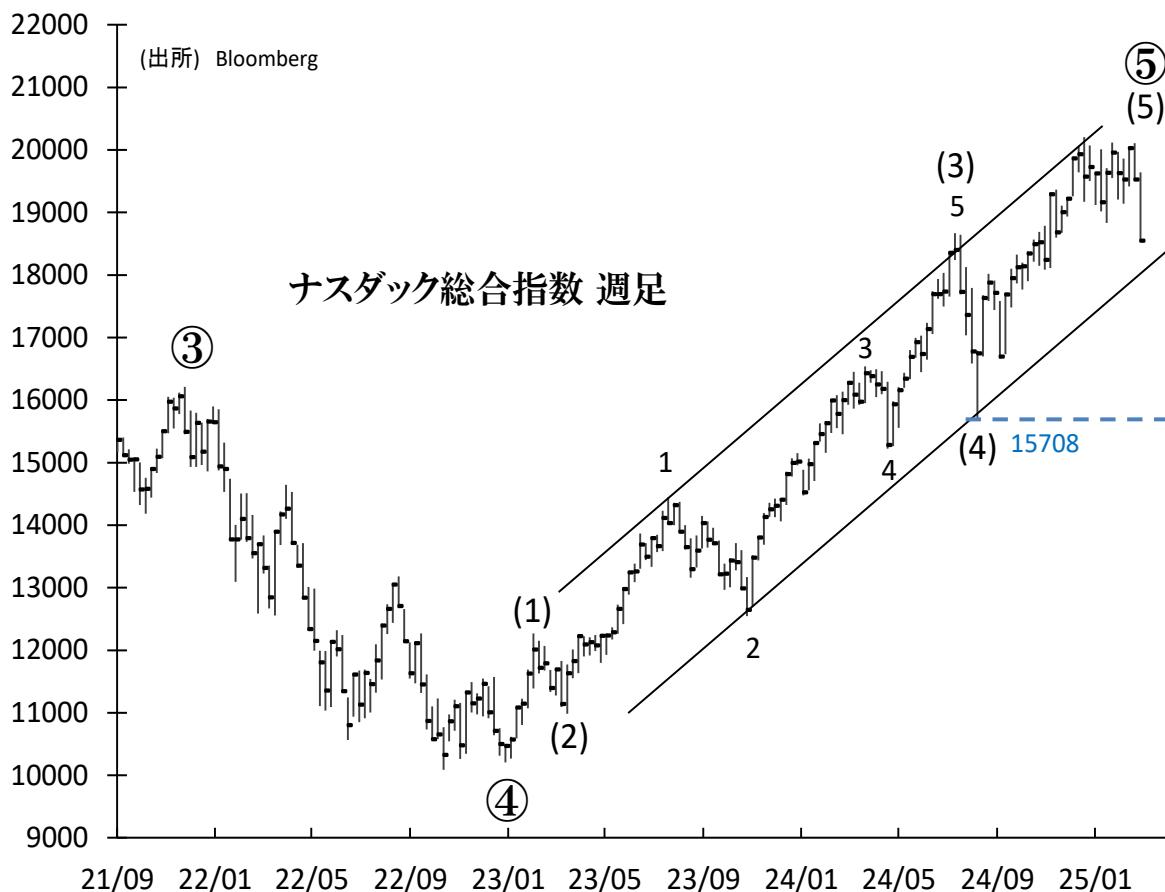
当面の節目は 4 万 3000 ドル。この付近に、フィボナッチからのサポートレベル・43,070 ドル(1 月からの上昇の 61.8% 押し)が控えます。終値ベースで 4 万 3000 ドルを下回ると、調整入りはより鮮明となり、次は 41,844 ドル(1/13 安値)への下値試しがなるでしょう。

### (オルタナティブ・カウント)

41,844 ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。第(v)波-第 i 波を 45,054 ドル(1/31 高値)で終え、足元は第 ii 波の調整にあります(第 ii 波は 4 万 3000 ドルを維持するでしょう)。第 ii 波を終えると NY ダウは、第 iii 波の上昇により最高値を更新するでしょう。

なお、この見方は 41,844 ドルを割ると無効になります。

## NASDAQ



### 【NASDAQ総合指数 週足 エリオット波動分析】

NASDAQ 100 は史上最高値を 2 月 19 日に更新していますが、その一方、NASDAQ総合指数(以下、NASDAQ)は 24 年 12 月 16 日の最高値をいまだに更新できていません。両者間の「未確認」は時間の経過とともに一段と鮮明となっており、重要な天井を付けたとの見方が強化されています。

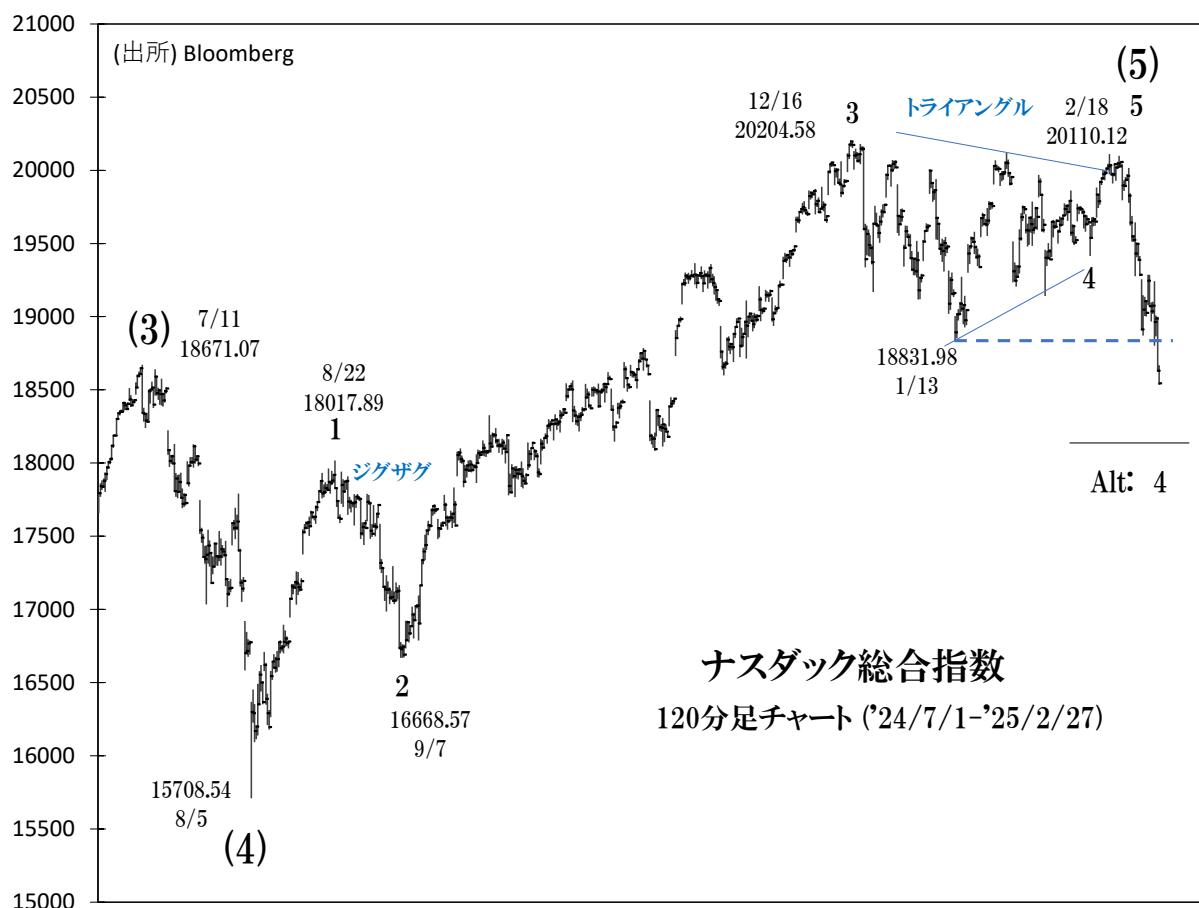
2 月 27 日の急落によって、NASDAQ は 1 月 13 日安値(18,831)を明確に下抜きました。今後 **NASDAQ 100 が—この日の安値は 20,540—1 月 13 日安値(20,538)を下抜くと、上述の「未確認」が確定し、さらなる弱気トリガー発動となります。**

NASDAQ は、22 年 12 月安値(10,207)以来の**プライマリー級第⑤波**を完了し、サイクル級の調整に入ったかもしれません。

ひとたびサイクル級の調整に入れば、調整規模は大きく、期間は長くなるでしょう。

今後NASDAQ は、24 年 8 月安値[15,708](レッサーディグリー(4)波安値)へ向けた弱基調となるでしょう。





### 【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』だったようす—本格的な調整に入った可能性があります。

2月27日には一時18,535まで急落しました。

ナスダックは短期的にも、[18,487](24年8月からの上昇の38.2%押し)を試すでしょうが、この近くには200日MAも控えていることから(日足チャート(P9)を参照)、少なくとも目先底をつける可能性があります。

反面、目先下げ基調が一段と強まって200日MA(18,345、2/27時点)を終値ベースで下抜くと、  
[17,956][17,426](24年8月からの上昇に対する50%-61.8%押し)を順次、試すことになるでしょう。

## 米ドル/円



### 【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から $\otimes$ 波「円高局面」が進行中です。この $\otimes$ 波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の $\otimes$ 波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクスパンディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は136.165円(3月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.540円(3月)です。



### 【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]仮説によれば、C 波は三波構成(@-②-③)になります。

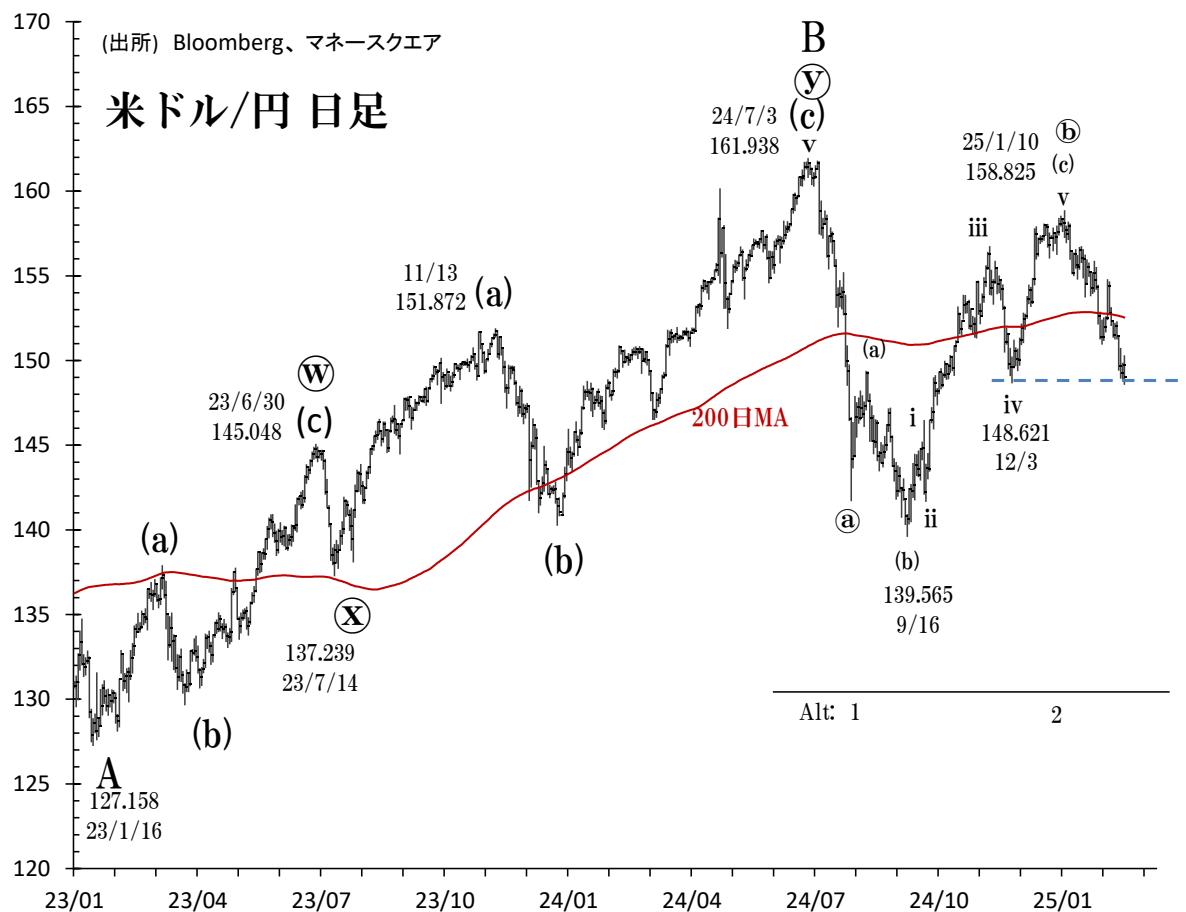
チャートは既に一目均衡表(週足ベース)の雲から明確に下放れており、中期的な円高トレンド入りが示唆されています。

158.825 円(1/10)からは②波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

ドル/円は今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くでしょう。その際は以下の水準が③波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…①波と③波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



### 【日足 エリオット波動分析】

ドル/円は2月25日に一時148.555円まで下げ、24年10月上旬以来のドル安・円高水準となりました。

この先も目先的なリバウンドを挟みながら、ドル安・円高の流れは続くでしょう。

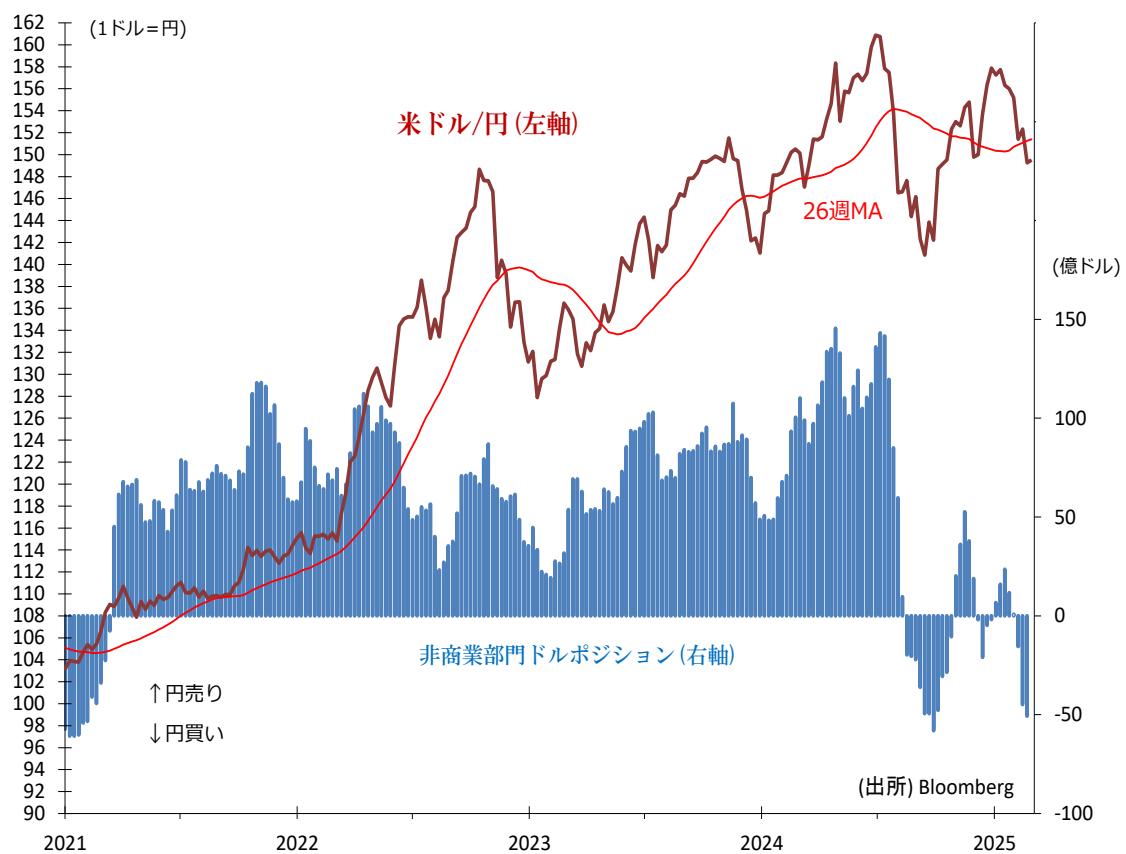
次は[146.922円] (9月からのドル/円上昇の61.8%戻り)を試す展開を予想します。

### 金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[144.777円]です。

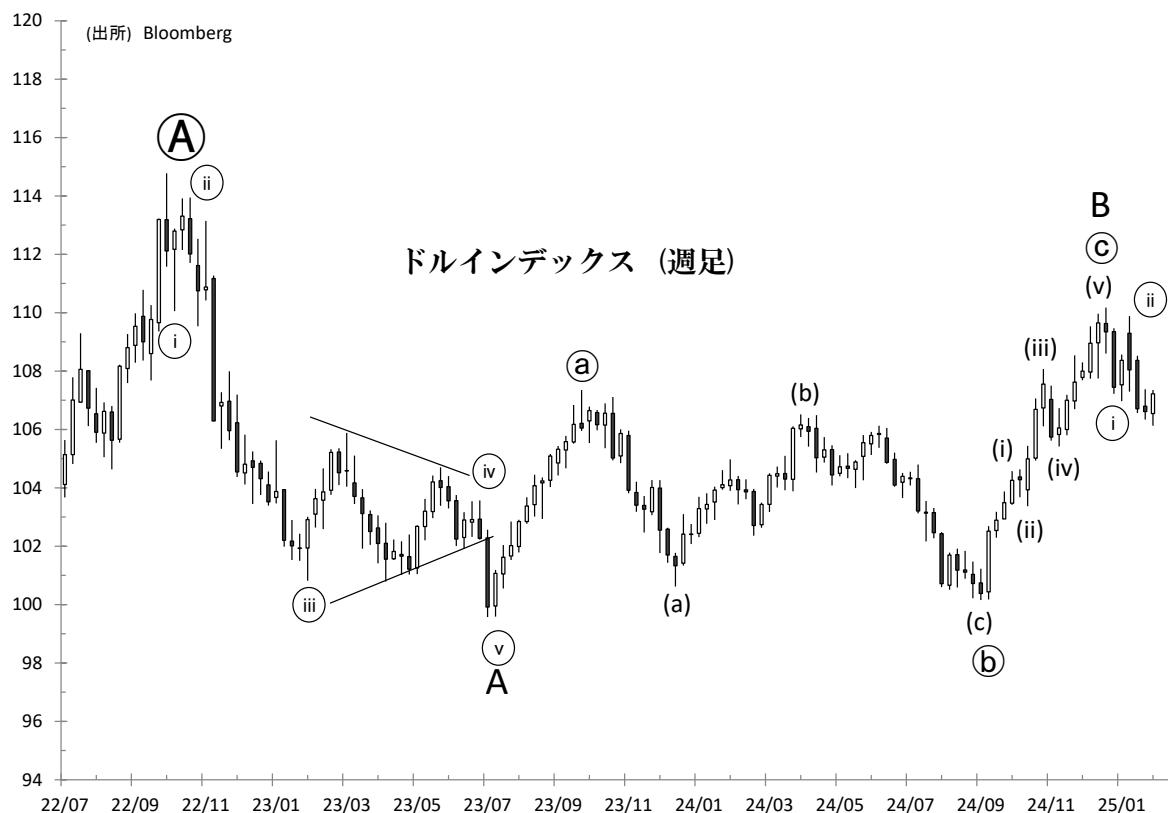
### 投機筋の円買い持ち高は3週連続増加(2025年2月18日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の44.8億ドルから50.7億ドルへ増えました。円買い持ち高の増加は3週連続です。





## ドルインデックス（ドル指数）



### 【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。既に B 波-④波の 38.2%押し[106.349]を達成し、目先的には下げ一服からリバウンドもありそうです。

もっともドル指数の下げ基調は今後も続き、**次は 24 年 12 月 6 日安値の[105.420]を試すでしょう。**

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 ルートで 13.2% 減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になります。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

#### 当社サービスに関しての注意事項

- ・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願ひいたします。
- ・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。
- ・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。
- ・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。
- ・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会

株式会社マネースクエア